生活支援コーディネーターだより　第13号　R2. 12. 1発行

With ウイッズ

～私たちが私たちらしく暮らせる地域づくりを
みんなですすめようという意味を込めています～

西宮市社会福祉協議会　共生のまちづくり課　生活支援コーディネーター
小薮（全市域・甲陽園）・髙井（中央）・髙田（鳴尾）・牧（瓦木）・中川（甲東・山口）・北山（塩瀬）
※山口地域と塩瀬地域は生活支援コーディネーターと地区担当者を兼務（北山は地域福祉課所属）
〒662-0857 西宮市中前田町１－２３　地域共生館ふれぼの内
TEL(0798)61-1361 FAX (0798)61-1409　kyoseimachi@n-shakyo.jp

生活支援コーディネーター かつどうトピックス

手紙のやり取りが４体のアマビエに！？

甲東３地区　大社地区　浜脇地区

新型コロナの感染拡大により、地域での交流活動を自粛せざるを得ない状況になり、人と人とのつながりが薄れてしまうのではないかと感じました。そこで“青葉園・ふれぼの”の重度の障害のあるご本人や職員と相談し、手紙のやり取りを通じたつながりを切らさないための取り組みを始めました。その取り組みの中で、「ただやり取りをするだけではなく、何か形に残したい」と青葉園・ふれぼのでは計350通以上の返信ハガキを使って巨大なアマビエを作成しました。

つながりを切らさないための取り組みは地域にも広がり、３つの地区でも手紙のやり取りが始まり、新たに３体のアマビエが作成されました。

皆さんからの温かいメッセージをまとった４体のアマビエが新型コロナを退散させてくれますように…

青葉園・ふれぼので完成した初代アマビエ

生活支援コーディネーター訪問記 “ええもん めっけ”

こんにちは！生活支援コーディネーター１年目の北山です！
今年度から塩瀬地域の地区担当と生活支援コーディネーターを兼務しています。
今回ご紹介するのは自宅開放型のつどい場「おむすびころりん」です。
　コロナ禍で工夫している活動を紹介します。

塩瀬エリア生活支援CO.北山

自宅開放型のつどい場 おむすびころりん

西宮市の郊外、東山台地区の閑静な住宅地の一軒家で、つどい場「おむすびころりん」が行われています。

普段は皆で一緒にお昼ご飯を食べながら過ごしていましたが、今は新型コロナの感染拡大を予防するためにお弁当に切り替えて、つどい場に来られる方々にお配りしています。

「お世話する側もされる側もお互いが元気をもらえる関係を築いていきたい」と代表の赤石さんは話されます。また、参加者やスタッフの皆さんも「ここに来ることが自分にとっては元気の源！」と口々にお話されます。
今は一緒に食べることは出来ませんが美味しいお弁当が皆さんの思いを繋いでくれています。

pick up

共生型地域交流拠点

はま Café マリナふらっと(西宮浜)

後編

だれもが"ふらっと"立ち寄れて、互いに応援し合える"フラット"なつながりをめざして

共生のまちづくり実践

市内で取り組みがすすんでいる「共生型地域交流拠点」についてシリーズで各拠点の様子を紹介しています。

＜はまＣａｆéマリナふらっと立ち上げについて＞
　まち開きをして２０年以上が経ち、まちの賑わいが減りつつあった西宮浜に活気を取り戻そうと『はまＣａｆéマリナふらっと』が誕生しました。
　「まちで暮らすみんながいくつになってもいきいきと、笑って過ごせるように」という住民の想いから 2 年の準備期間を経て今年 7 月に開設されました。
（詳しい立ち上げ経過については、前号をご覧ください）

子育て世代や学生、
定年退職された男性
まで幅広く活躍中です！

はま café マリナ
ふらっと

場　　所：西宮浜４丁目 14-3
開設日時：月・水・土 10 時-16 時（12 月現在）
のみもの：1 杯 100 円

分かりやすい
イラストで
感染予防！

スタッフのみなさんにインタビュー

Q活動の中で大事にしていることは？

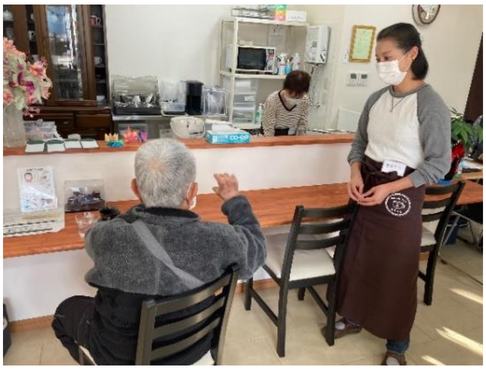
　まずは来られた方との**会話を楽しむ**ことを心掛けています。キッチンにいる時間よりも利用者さんのそばで話す時間の方が長いですね。浜の魅力を語る方がいる一方で、最近引っ越してきたばかりで浜のことを知りたいと話す方もおられます。他にも退院してすぐに元気な姿を見せに来てくれる方など本当に色々な方との出会いがあります。

Q男性の利用も多いですね。

　おひとりで来られる男性が少しずつ増えています。スタッフの名前を忘れないようにとメモして帰られる方もいてなんだか照れくさいです（笑）。最近は、もしかしたら A さんと B さんならお話が合うかも！と思い、同じ時間帯に来られた時にスタッフが**間をつなぐ**こともあります。今ではスタッフがいなくても隣に座って仲良くお話されています。

Q 印象に残っていることを教えてください。

　趣味のクラフトづくりについて話してくれたお年寄りの男性が、後日作品を持ってきてくれました。ふらっとに来られている方がその作品を見てびっくりする様子に、男性がとても嬉しそうでした。
　他にも、折り紙の得意な方が学生スタッフに教えてくれたり、クリスマスに向けた飾りを考えてくれる方がいたりと、ふらっとが**みんなの活躍の場**になっているように感じます。



ふらっとの魅力★

　住民との“出会い”を楽しみに活動されているスタッフの温かさが、ふらっとの居心地の良さにつながっています。また、スタッフと利用者が“フラット”な関係で交流を重ねる中で『みんなのふらっと』という想いが地域に芽生えています。そんな地域の拠点でこれからどんなエピソードが生まれるのか、とても楽しみです！
中央圏域担当コーディネーター：高井

「共生型地域交流拠点」は生活支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰが立ち上げや運営のｻﾎﾟｰﾄをしています。お気軽にご相談ください♪